

C-25 地直しに関する研究(オス報) — 芯地、裏地について —

県立島根女短大 阿部邦子

目的 被服構成の第1工程としてなされる地直しは製作した服の着用後の型くずれに影響するので重要視しなければならない。これを無視した場合洗濯等により着用し耐えなくなることがあるので、裁断する前に用布の端び収縮試験を行いその結果により地直しを行うかどうか、如何なる方法で行うか等を判断しなければならない。その第1段階として各地直し後の収縮率はどうか。各種地直しは洗濯又は水濡れに対してどの程度の効果があるものか等を究明する為此の研究を行った。

方法 ジャケットの芯地5種、裏地5種を試料とし、無処理布、水濡れ処理布、霧吹処理布、縮絨店処理布の4種を湿式洗濯、ドライクリーニング、水浸30分の3種の操作を各回繰返しその収縮率を出した。

結果 各地直し後の収縮率は毛芯類はたて：0.2~1.7%、よこ：0.1~1.2%で水濡れ処理が多く収縮する。カネカロン芯は最大0.55%である。麻芯はたて：1%前後、よこ：2.5~3.3%でよこの収縮率が大きい。不織布0.1~0.6%、裏地類はたて：2~3%、よこ：0.5~1.9%である。湿式洗濯における収縮率について見ると、芯類のたては無処理布と処理布の差はあまりなく最高1%程度であるが、よこは因も重なることによりその差が大になり最大3%となる。裏地類はたてよこ共2~3%位無処理布が処理布より多く収縮する。ドライクリーニングではカネカロン芯だけが最高3%の差が出てくるが、その他の芯地、裏地は各収縮率が1%以内で処理布と無処理布の差は非常に少ない。